



インストール・ガイド

Sybase Control Center 3.2.3

ドキュメント ID：DC01808-01-0323-01

改訂：2011年9月

Copyright © 2011 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいエディションまたはテクニカル・ノートで特に示されない限り、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供され、使用や複製はこの契約に従って行う場合にのみ許可されます。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase および表記されている商標は、Sybase, Inc の商標です。® は、米国で登録されていることを示します。

記載されている SAP およびその他の SAP 製品とサービスは、使用されているロゴと同様、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568

目次

Sybase Control Center について	1
追加の説明や情報の入手	1
Sybase Control Center のインストール作業の流れ	3
インストールの計画	5
ライセンスの取得	5
システムの稼働条件	5
Sybase Control Center が使用するネットワーク・ ポート	7
インストールの制限事項	8
インストール前の作業	11
Sybase Control Center のインストール	13
Sybase Installer を使用したインストール	13
応答ファイルを使用したインストール	16
応答ファイルの作成	17
無人 (サイレント) モードでのインストール	18
アンインストール	20
Sybase Control Center のアップグレード	23
Sybase 以外のレプリケート・データベース用の JDBC ド ライバのインストール	25
Sybase Control Center の起動と停止	27
Windows での ODBC ドライバの登録	27
Windows での Sybase Control Center の起動と停止	27
UNIX での Sybase Control Center の起動と停止	30
インストール後の設定	37
SSL 証明書の設定	38
デフォルト・ログイン・アカウントへのパスワード の設定／無効化	39
パスワードの暗号化	41

目次

Sybase Control Center の設定	41
インストールのトラブルシューティング	43
索引	49

Sybase Control Center について

Sybase[®] Control Center は、Web ブラウザベースのクライアントを使用して Sybase 製品をモニタリング、管理できる統合ソリューションを提供するサーバ・アプリケーションです。

Sybase Control Center が提供する単一の包括的な Web 管理コンソールを使用すると、Sybase の大規模なエンタープライズ・サーバのパフォーマンス、ステータス、可用性をリアルタイムでモニタリングできます。Sybase Control Center は、モジュール・アーキテクチャ、リッチ・クライアントの管理コンソール、エージェント、共通サービス、Sybase 製品の管理と制御のためのツールが統合された製品です。履歴モニタリング機能、しきい値ベースの警告および通知機能、警告ベースのスクリプト実行機能のほか、パフォーマンスと使用の各傾向を見極めるためのインテリジェントなツールが含まれています。

Sybase Control Center サーバがサポートできるユーザとリソースは、次のとおりです。

- 同時ログインできるユーザは最大 10 人まで
- モニタリングできるリソース (サーバ) は最大 100 台まで

1 台の Sybase Control Center サーバから実際にモニタリングできるリソースの限度は、多数の要因に左右されます。たとえば、CPU、メモリ、ディスク領域などの利用できるシステム・リソース、定期的に収集されるデータの数、データ収集の実行間隔、Sybase Control Center が実行している作業の種類 (管理かモニタリングか) などに左右されます。

追加の説明や情報の入手

Sybase Control Center に関するマニュアルやその他のリソースの入手方法について説明します。

Sybase Product Documentation Web サイトでは、Sybase のマニュアルに標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照する、または PDF としてダウンロードできます。また、製品マニュアルとオンライン・ヘルプのほか、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Sybase Product Documentation Web サイトは、<http://sybooks.sybase.com> の [Product Documentation] にあります。

注意：製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載した更新版のリリース・ノートを Sybase Product Documentation サイトから入手できることがあります。PDF 形式のマニュアルを表示するか印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、<http://get.adobe.com/jp/reader/> から無料でダウンロードできます。

Sybase Control Center のインストール作業の流れ

作業の流れには、計画、インストール、アップグレードのための、すべての作業が含まれています。最も適切な作業の流れを選択してください。

ヒント： このトピックを印刷して、チェックリストとして使用してください。

SCC の初回インストール	新しいバージョンへのアップグレード
インストールの計画を作成します (5 ページ)。	インストールの計画を作成します (5 ページ)。
インストール前の作業を実行します (11 ページ)。	インストール前の作業を実行します (11 ページ)。
次のいずれかの方法で Sybase Control Center をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> 対話型の GUI モードまたはコンソール・モード (13 ページ)、または 応答ファイルを使用するサイレント・モード (16 ページ) 	次のいずれかの方法で Sybase Control Center をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> 対話型の GUI モードまたはコンソール・モード (13 ページ)、または 応答ファイルを使用するサイレント・モード (16 ページ)
	Sybase Control Center をアップグレードします (23 ページ)。
レプリケーション環境で、 rs_ticket を使用して、Sybase 以外のレプリケート・データベースへの遅延を測定する場合は、Sybase 以外のレプリケート・データベース用の JDBC ドライバをインストールします (25 ページ)。	レプリケーション環境で、 rs_ticket を使用して、Sybase 以外のレプリケート・データベースへの遅延を測定する場合は、Sybase 以外のレプリケート・データベース用の JDBC ドライバをインストールします (25 ページ)。
SSL 証明書を設定します (38 ページ)。	SSL 証明書を設定します (38 ページ)。
Sybase Control Center を設定します (41 ページ)。	Sybase Control Center を設定します (41 ページ)。
デフォルト・ログイン・アカウントにパスワードを設定するか、アカウントを無効にします (39 ページ)。	デフォルト・ログイン・アカウントにパスワードを設定するか、アカウントを無効にします (39 ページ)。
	前のバージョンの Sybase Control Center をアンインストールします (20 ページ)。

Sybase Control Center のインストール作業の流れ

インストールの計画

環境を準備してから、インストールを行います。

- Sybase Control Center サーバをインストールするコンピュータを決定します。ここでは、組織で必要となるさまざまな製品モジュール・プラグインもインストールします。多くの場合、1台のサーバで組織全体をカバーできます。「インストールの制限事項」(8 ページ)を参照してください。
- 「システムの稼働条件」(5 ページ)を参照して、選択したコンピュータが計画している用途に合っていることを確認します。
- 「インストール前の作業」(11 ページ)と「Sybase Installer を使用したサーバのインストール」(13 ページ)を参照して、決定が必要な事項を確認します。

ライセンスの取得

Sybase Control Center のライセンスは、Sybase Control Center の管理対象製品 (Adaptive Server[®]、Sybase IQ、Replication Server[®]、Replication Agent[™]、Mirror Replication Agent、Replication Server Data Assurance オプションなど) の有料ライセンスをお持ちのお客様に無償で提供されます。評価版ライセンスもあります。

ライセンスを取得する必要はありません。インストーラでは、次のライセンス・オプションを選択できます。

- [Install licensed copy of Sybase Control Center Suite] – Sybase Control Center の管理対象製品の有料ライセンスをお持ちの場合は、このオプションを選択します。永続版 (有効期限のない) ライセンスで Sybase Control Center がインストールされます。
- [Evaluate Sybase Control Center Suite] – Sybase Control Center の管理対象製品の有料ライセンスをお持ちでない場合、または Sybase Control Center の永続版をインストールしない場合は、このオプションを選択します。この評価版ライセンスは、30 日が経過すると有効期限が切れます。

システムの稼働条件

システムが要件をすべて満たしていることを確認してから、Sybase Control Center (SCC) をインストールします。

Sybase Control Center サーバには、最小限でも次の仕様を備えたマシンを選択することをおすすめします。

インストールの計画

- 2.4GHz プロセッサ x 2
- 4GB の RAM

表 1 : Sybase Control Center サーバの要件

SCC サーバのプラットフォーム	オペレーティング・システム
x86/32 ビット x86/64 ビット	Windows XP Pro (SCC をサービスとして実行するには、Service Pack 1 以降が必要) Windows Vista Windows 7 Windows Server 2008 R2 Red Hat Enterprise Linux 5、6 SUSE Linux Enterprise 10、11 SP1
Sun SPARC 64 ビット版	Solaris 9、10
Sun-64 (x64)	Solaris 10

Sybase Control Center 3.2.3 は、Flash Player 10.1 以上をインストールした次のブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 8 以上
- Firefox 3.6 以上

表 2 : インストールに必要なディスク領域

アーキテクチャ	最小限必要なディスク領域	インストーラの実行に必要な最小限の一時ディスク領域
Windows x86	465MB	45MB
Linux x86	515MB	25MB
Sun SPARC	515MB	25MB

インストール後に必要なディスク領域は、モニタリングするサーバの台数や、収集するパフォーマンス・データの量によって大きく異なります。履歴パフォーマンス・データのレポジトリが拡大すれば、Sybase Control Center ではより多くのディスク領域が使用されます。必要なストレージを適時追加できるように、ディスク使用量と増加の傾向を注意深くモニタリングすることをおすすめします。

Sybase Control Center が使用するネットワーク・ポート

インストール先のマシンで使用されているポートが、Sybase Control Center が使用するポートと競合しないことを確認します。

Sybase Control Center は、さまざまなサービスで TCP ポートを使用します。次の示すポートのいずれかを別のアプリケーションが使用している場合、Sybase Control Center は起動しないか、そのサービスが正しく機能しないことがあります。

注意： Sybase Control Center がインストールされている場合、**scc --info ports** を使用して、アプリケーションまたはサーバによって現在使用されている Sybase Control Center のポートをリストできます。Sybase Control Center のポートを再割り当てするには、**scc** コマンドの **--ports** オプションを使用します。詳細については、Sybase Control Center のオンライン・ヘルプを参照してください。

ポート名	デフォルトのポート番号	必須	説明
RMI	9999	はい	RMI プロトコルによるアクセスに使用される Sybase Control Center サーバ・ポート。
HTTP	8282	はい	サーバへの HTTP による Web アクセスに使用される Sybase Control Center サーバ・ポート。すべての HTTP トラフィックは、安全な HTTPS チャンネルにリダイレクトされます。
HTTPS	8283	はい	サーバへの HTTPS による安全な Web アクセスに使用される Sybase Control Center サーバ・ポート。すべての HTTP トラフィックは、安全な HTTPS チャンネルにリダイレクトされます。
Database	3638	はい	Sybase Control Center サーバのリポジトリ・データベース用ポート。複数のサービスによって使用されます。
Messaging Service	2000	はい	Sybase Control Center サーバのメッセージング・ポート。
Tds	9998	いいえ	TDS (Tabular Data Stream™) プロトコルによるアクセスに使用される Sybase Control Center サーバ・ポート。
Jini Http	9092	いいえ	Jini 検索サービスに使用される Jini HTTP ポート。

ポート名	デフォルトのポート番号	必須	説明
Jini Rmid	9095	いいえ	Jini 検索サービスに使用される Jini RMID サーバ・ポート。
Ldap	389	いいえ	LDAP 検索サービス・アダプタ・ポート。

インストールの制限事項

Sybase Control Center の展開を計画するときには、パフォーマンスの問題を回避するために、モニタリング上の制限とハードウェア要件について考慮してください。

SCC でモニタリングするサーバの台数を検討してから、Sybase Control Center を展開します。1 台の SCC サーバは、最大 100 リソースをモニタリングできます (1 台の SCC サーバが効率的にモニタリングできるリソースの数は、モニタリング対象のリソースの複雑度、データの収集頻度、同時 SCC ユーザの数、SCC を実行しているホストのハードウェア構成によって変わります)。100 を超えるリソースをモニタリングするには、SCC サーバを追加インストールし、サーバの間でリソースを分散します。モニタリング上の制限は、SCC を管理対象サーバと同じマシン上にインストールした場合、専用のマシン上にインストールした場合のいずれにも該当します。

Sybase Control Center をインストールする場所についても検討します。SCC は、モニタリング対象のサーバごとにパフォーマンス・データを収集、保存することがあります。データの収集では、かなりの量の CPU サイクル、ディスク領域、ネットワーク・リソースが使用されることがあるため、SCC は同じホスト・マシンを共有する他のサーバのパフォーマンスに影響を与えることがあります。このため、運用環境で管理対象サーバと同じホスト上に SCC サーバをインストールする前には、慎重に計画することをおすすめします。

ただし、次の状況では、SCC と管理対象サーバを 1 つのホストに集約してインストールすると、適切なパフォーマンスが得られることがあります。

- テスト、評価、概念実証プロジェクト
- SCC を本格的に使用しないシナリオ
- ホスト・マシンのリソースが、SCC の要件と管理対象サーバの要件の合計を満たしているか、上回っている場合

SCC を管理対象サーバと同じマシン上にインストールする場合は、SCC と管理対象サーバそれぞれのシステム要件を考慮し、両方の製品に対応できる十分な CPU、RAM、ディスク、ネットワーク・リソースがホスト・マシンに備わってい

ることを確認します。1台の管理対象サーバで必要なリソースは、SCC で必要なリソースと同様に、サーバの構成によって大きく異なります。一般に、サーバの構成が複雑なほど、SCC で使用するリソースは増えます。また、SCC は、データ収集を頻繁に実行するように構成されている場合、より多くのリソースを使用します。

Sybase Control Center と管理対象サーバを同じマシン上にインストールした後に、分離する必要が生じ、サポートが必要な場合は、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタまでお問い合わせください。

インストールの計画

インストール前の作業

インストールの準備をします。

Sybase Control Center は、Web ベースの多層アーキテクチャを採用しているため、わずかな台数の SCC サーバを使用して、複数の SCC クライアントから、企業内にあるサポート対象のすべての Sybase サーバのモニタリングと管理を行えます。多くの場合、必要な SCC サーバは 1 台で済みます。SCC クライアントは、Web ブラウザで実行できる、リッチ・インターネット・アプリケーションです。SCC クライアントには、Adobe Flash Player プラグインが必要です。

1. Sybase Control Center をインストールする予定のコンピュータが「システムの稼働条件 (5 ページ)」を満たしているとともに、管理対象のサーバおよびクライアント・ワークステーションへのネットワーク接続が良好であることを確認します。展開に関連する次の問題についても検討してください。
 - ネットワーク遅延時間を最小限に抑える – モニタリング対象のサーバと、クライアントが実行されるワークステーションに近い場所に Sybase Control Center をインストールする方が、パフォーマンスが高くなります。
 - Sybase Control Center の環境を 1 つにする – Sybase Control Center の管理対象製品 (Adaptive Server、Data Assurance、Replication、または Sybase IQ) とともに SCC を入手した場合は、SCC サーバを中心的な場所にインストールし、個々の製品モジュール・プラグインすべてを、その SCC インストール・ディレクトリに追加することを検討してください。このようにすることで、1 つの SCC インストール・ディレクトリからサーバの管理とモニタリングを行えます。これは、レプリケーション環境では特に便利です。
 - 冗長性 – Sybase Control Center が組織内でミッションクリティカルな役割を担っている場合は、2 つ以上の Sybase Control Center サーバをインストールして、フェールオーバーを実現することを検討してください。
 - 管理とセキュリティ – 組織内の場所によって、管理レベルを変えることができます。たとえば、一部のサーバに含まれるデータを、他よりも厳密に保護して、管理レベルを変えることができます。
2. 特に UNIX への展開を計画している場合は、他の担当者に準備への協力を求めます。UNIX サーバ上で SCC のセキュリティを設定するには、root 権限が必要です。
3. リリース・ノートを一読して、Sybase Control Center ヘルプには含まれていない既知の問題や変更について確認してください。
4. ご使用のオペレーティング・システムで JRE (Java Runtime Environment) 6 の実行に必要なパッチがある場合は、インストールします。

インストール前の作業

5. Sybase Control Center をファイル・システム内のどこにインストールするかを決定します。非 ASCII 文字を使用して名前が付けられたディレクトリには、インストールしないでください。ファイル・システムに Sybase ディレクトリがすでに含まれる場合は、SCC をそこにインストールすることを検討してください。

Sybase Control Center のインストール

選択した方法を使用してサーバをインストールします。

前提条件

サーバのインストール計画とインストール前の作業を完了します。

手順

Sybase Control Center は、次の 2 つの方法でインストールできます。

- 対話型の Sybase インストーラを GUI モードまたはテキストベースのコンソール・モードで使用する。「Sybase Installer を使用したインストール」(13 ページ)を参照してください。
- サイレント・モード(無人)を使用する。このモードでは、インストーラのプロンプトに対する回答を提供する応答ファイルを作成します。「応答ファイルを使用したインストール」(16 ページ)を参照してください。

注意： Sybase Control Center 3.2.3 は、SCC 3.2.x に上書きインストールできます。その場合、アップグレードは不要です。ただし、SCC 3.2.3 をインストールする前に SCC 3.2.x をインストールする必要はありません。

Sybase Installer を使用したインストール

インストーラをダウンロードして、Sybase Control Center サーバを GUI モードまたはコンソール・モードでインストールします。インストーラによって SCC ディレクトリが作成され、選択したコンポーネントがそのディレクトリにインストールされます。

前提条件

- インストール前の作業を実行します。
- アップグレードの場合は、前のバージョンの Sybase Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。HTTP、HTTPS、RMI の各ポートを設定するときに、インストーラは、指定されたポート番号が使用されていないかどうかを確認します。新しいバージョンをインストールするときに、前のバージョンの Sybase Control Center が実行されていると、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。2 つの

バージョンの Sybase Control Center を同時に実行する予定の場合のみ、異なるポートを設定してください。ただし、これはおすすめしません。

手順

Sybase Control Center のインストーラは、Windows と UNIX (Linux および Solaris) オペレーティング・システムのいずれでも、GUI モード (グラフィカルな対話) またはテキストベースのコンソール・モードで実行されます。

1. Sybase Control Center の管理対象の製品 (Adaptive Server、Data Assurance、レプリケーション製品、Sybase IQ) に SCC が付属していた場合は、Sybase Control Center インストーラをメディアからインストール先のマシンにコピーします。
Sybase Control Center と、サーバ製品に付属のメディアに含まれていない製品モジュールプラグインを Web から入手するには、SCC インストーラを <http://downloads.sybase.com> からダウンロードします。
2. 必要に応じて、インストーラ・パッケージを解凍します。
3. (Windows) Windows にインストールする場合は、Windows のバージョンにかかわらず、管理者特権のあるアカウントを使用してログインします。
4. (Windows) 32 ビット版の SCC を 64 ビット版の Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 にインストールする場合は、インストーラの互換モードを Windows XP に設定します。

ヒント： この余分な手順を回避するには、64 ビット版の SCC Windows インストーラを使用します。

- a) `setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックします。
 - b) [プロパティ] を選択します。
 - c) [互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択します。
 - d) [OK] をクリックします。
5. (Windows) Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 でインストールを実行する場合は、インストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者特権を持っている場合でも、このオプションを設定してください。
 - a) `setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックします。
 - b) [管理者として実行] を選択します。
 6. (UNIX) UNIX オペレーティング・システムで GUI モードを使用して Sybase Control Center をインストールする場合は、`$DISPLAY` 環境変数が、インストーラを表示するマシンに設定されていることを確認します。
この変数を正しく設定しないと、インストーラはテキストベースのコンソール・モードで表示されます。

7. 次のインストーラを起動します。

オペレーティング・システム	GUI モード	コンソール・モード
Windows	setup.exe を開く	setupConsole.exe -i console を実行する
UNIX	setup.bin を実行する	setup.bin -i console を実行する

注意： インストーラの起動で問題が発生する場合は、JRE (Java Runtime Environment) バージョン 6 に対する必要なオペレーティング・システム・パッチが適用されていることを確認します。

8. Sybase Control Center のソフトウェア・ライセンスの種類を選択します。ライセンス版をインストールする場合は、ライセンスを取得する必要はありません。
9. 該当する地域を選択し、ライセンス条件を一読して、[I agree to the terms of the Sybase license for the install location specified] を選択します。
10. Sybase Control Center をインストールするディレクトリを選択します。
デフォルトのインストール・ディレクトリは、次のとおりです。
 - Windows – C:\¥Sybase
 - UNIX – /opt/sybase
11. 既存のディレクトリへのインストールに関する警告メッセージが表示された場合は、[Next] をクリックします。
12. 次のインストールの種類を選択します。
 - [Full] – Sybase Control Center サーバの基本機能と、利用可能なすべての製品モジュールがインストールされます。
 - [Custom] – インストールする Sybase Control Center 製品モジュールを選択できます。SCC の基本機能は常にインストールされます。

注意： (アップグレードの場合) 前のバージョンの Sybase Control Center を使用して、2 種類以上のリソース (Adaptive Server、Sybase IQ、Replication Server、Replication Agent、Data Assurance) を管理およびモニタリングしていた場合は、新しいバージョンの SCC で同じ製品モジュール・プラグインをインストールしてください。

13. インストール前の概要画面で、インストールを選択した機能を確認します。また、インストールを完了するのに十分なディスク空き領域があることを確認します。インストールを開始するには、[Install] をクリックします。
14. [Configure Sybase Control Center] 画面で、指定している HTTP および HTTPS ポートが、同じマシン上の他のアプリケーションやサービスで使用されているポ

トと競合していないことを確認します。デフォルトのままにしないで別のポート番号を入力した場合は、その番号を控えます。ブラウザを Sybase Control Center に接続するために、そのポート番号が必要になります。

アップグレード版をインストールしている場合は、旧バージョンの Sybase Control Center に使用していたのと同じ HTTP ポート番号と HTTPS ポート番号は使用できません。ただし、旧バージョンと新バージョンを同時に実行することがない場合は使用してもかまいません。

15. [Configure RMI] 画面で、指定している RMI ポートが、同じマシン上の他のアプリケーションやサービスで使用されているポートと競合していないことを確認します。
16. [Review Configuration Summary] 画面で、設定が正しいことを確認します。設定を変更するには、[Previous] をクリックして、[Configure Sybase Control Center] および [Configure RMI] 画面に戻ります。
17. このインストール環境から、複数の SCC サーバまたはエージェントを実行する予定の場合は、[Enable SCC Shared Disk] 画面で、[Yes] をクリックして、共有ディスク・モードを有効にします。[Yes] を選択した場合は、次の画面で、最初の SCC インスタンス (SCC エージェント) の名前を指定します。インスタンスの作成と設定には、数分かかる場合があります。
18. (Windows) [Sybase Control Center Service Setup] 画面で、[Yes] を選択して、SCC を Windows サービスとして設定します。サービスは運用環境に設定することをおすすめします。[No] を選択した場合は、Sybase Control Center を手動で起動する必要があります。
19. インストールの完了後に SCC を起動するには、[Start Sybase Control Center] 画面で [Yes] を選択します。SCC が起動するまでに数分かかることがあります。
20. [Installation Completed] 画面に表示された結果を確認して、[Done] をクリックします。

次のステップ

共有ディスク・モードを使用している場合は、Sybase Control Center オンライン・ヘルプで次の事項を確認してください。

- SCC エージェントおよびサーバのインスタンスの展開および管理手順
- インスタンスの展開によって変化する SCC のインストール・ディレクトリ構造についての説明

応答ファイルを使用したインストール

インストール応答ファイルを作成し、それを使用してサイレント・モードで Sybase Control Center をインストールします。これにより、ユーザ入力を最小限に

抑えることができます。サイレント・モードは、複数のマシンに SCC をインストールしたり、ハードウェア障害の場合に繰り返し実行できるインストールを設定したりするための便利な方法です。

応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録するか、サンプル応答ファイルをコピーします。いずれの場合も、ファイルを編集して、応答をカスタマイズします。

前提条件

アップグレードの場合は、前のバージョンの Sybase Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。HTTP、HTTPS、RMI の各ポートを設定するときに、インストーラは、指定されたポート番号が使用されていないかどうかを確認します。新しいバージョンをインストールするときに、前のバージョンの Sybase Control Center が実行されていると、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。2つのバージョンの Sybase Control Center を同時に実行する予定の場合のみ、異なるポートを設定してください。ただし、これはおすすめしません。

手順

GUI モードまたはコンソール・モードでインストールするときに応答ファイルを作成するには、`-r` コマンド・ライン引数を使用します。`-r` 引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。応答ファイルはテキスト・ファイルです。応答内容を編集して変更することができます。

別の方法として、`sample_response.txt` という名前のサンプル応答ファイルを使用することもできます。このファイルは、Sybase Control Center インストーラ・イメージがダウンロードされたディレクトリにあります。以下に説明している方法で応答ファイルを作成するよりも、サンプル応答ファイルをコピーして編集する方が適切な場合もあります。オプションの説明はファイル内にあります。

1. (Windows) 32 ビット版の SCC を 64 ビット版の Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 にインストールする場合は、インストーラの互換モードを Windows XP に設定します。

ヒント： この余分な手順を回避するには、64 ビット版の SCC Windows インストーラを使用します。

- a) `setup.exe` または `setupConsole.exe` を右クリックします。
- b) [プロパティ] を選択します。

- c) [互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択します。
 - d) [OK] をクリックします。
2. (Windows) Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 でインストールを実行する場合は、インストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者特権を持っている場合でも、このオプションを設定してください。
- a) `setupConsole.exe` を右クリックします。
 - b) [管理者として実行] を選択します。
3. インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを実行します。
- Windows コンソール・モード：

```
setupConsole.exe -i console -r <full-path-to-response-file>
```
 - 例：

```
setupConsole.exe -i console -r C:¥work¥responsefile.txt
```
 - Windows GUI モード：

```
setupConsole.exe -r <full-path-to-response-file>
```
 - 例：

```
setupConsole.exe -r C:¥work¥responsefile.txt
```
 - UNIX：

```
setup.bin -r <full-path-to-response-file>
```
 - 例：

```
setup.bin -r /work/responsefile.txt
```
-
- 注意：** 応答ファイルへのディレクトリ・パスは、すでに存在している必要があります。
4. インストーラへの応答方法については、「Sybase Installer を使用したインストール」(13 ページ)を参照してください。

無人(サイレント)モードでのインストール

サイレント(無人)インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

前提条件

- インストール応答ファイルを作成します。
- アップグレードの場合は、前のバージョンの Sybase Control Center を停止してから、新しいバージョンをインストールすることをおすすめします。HTTP、HTTPS、RMI の各ポートを設定するときに、インストーラは、指定されたポート番号が使用されていないかどうかを確認します。新しいバージョンをイン

ストールするときに、前のバージョンの Sybase Control Center が実行されていると、両方のバージョンで同じポートを使用することはできません。2つのバージョンの Sybase Control Center を同時に実行する予定の場合のみ、異なるポートを設定してください。ただし、これはおすすめしません。

手順

1. (Windows) Windows にインストールする場合は、Windows のバージョンにかかわらず、管理者特権のあるアカウントを使用してログインします。
2. (Windows) Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 でインストールを実行する場合は、インストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者特権を持っている場合でも、このオプションを設定してください。
 - a) `setupConsole.exe` (推奨) または `setup.exe` を右クリックします。

警告！ Windows では、`setupConsole.exe` を使用することをおすすめします。このファイルは、サイレント・インストールを実行したときに、フォアグラウンドで実行されます。`setup.exe` はバックグラウンドで実行されるため、インストールが異常終了したという印象をユーザに与え、サイレント・インストールを使用して再度インストールが試行される結果になります。複数のインストールを同時に実行すると、Windows レジストリが破壊され、オペレーティング・システムを再起動できなくなることがあります。

- b) [管理者として実行] を選択します。
3. サイレント・モードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

Windows :

```
setupConsole.exe -f <responseFileName> -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true -DRUN_SILENT=true
```

UNIX :

```
setup.bin -f <responseFileName> -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true -DRUN_SILENT=true
```

ここで、*responseFileName* は、指定したインストール・オプションを含むファイルのフル・パスと名前です。

注意： サイレント・モードでインストールする場合は、Sybase ソフトウェア・ライセンスに同意します。次のいずれかを実行します。

- 次のオプションをコマンド・ライン引数に含めます。

```
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

または

- 応答ファイルを編集して、次のオプションを含めます。

```
AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

GUI 画面またはコンソール画面が表示されない以外は、サイレント・インストールのすべてのアクションは、GUI モードおよびコンソール・モードのインストールのアクションと同じです。したがって、サイレント・モード・インストールの結果は、同じ応答内容で実行した、GUI モードまたはコンソール・モードでのインストールの結果とまったく同じです。

アンインストール

システムから Sybase Control Center を削除します。

次の 2 つのモードでアンインストールできます。

- GUI モード – ユーザとの対話形式でアンインストールが実行されます。
- サイレント・モード – ユーザとの対話なしで、アンインストーラによってファイルが削除されます。

アンインストールでは、Sybase Control Center の基本機能と製品モジュールを含むすべてのコンポーネントが削除されます。個々のコンポーネントをアンインストールすることはできません。

次のファイルはアンインストールでは削除されません。

- 他の Sybase 製品と共有されている可能性がある Sybase ディレクトリ内のファイル (JRE など)。
- インストール後に作成されたファイル (ログ・ファイル、バックアップ・ファイルなど)。

共有ディスク・インストールから実行されている SCC エージェントおよびサーバのインスタンスを無効または削除するために、アンインストールを実行する必要はありません。インスタンスの管理の詳細については、SCC のオンライン・ヘルプを参照してください。

1. (Windows) アンインストールを行う場合は、Windows のバージョンにかかわらず、管理者としてログインします。
2. (Windows) Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 でアンインストールする場合は、アンインストーラで [管理者として実行] オプションを設定します。すでに管理者特権を持っている場合でも、このオプションを設定してください。
 - a) %SYBASE%\sybuninstall\SCCSuite-X_X\uninstall.exe を右クリックします。ここで、X_X はリリース番号です。

- b) [管理者として実行] を選択します。
3. アンインストーラを起動します。

Windows の場合：

GUI モード	次のファイルをダブルクリックして開きます。 %SYBASE%\sybuninstall\SCCSuite-X_X\uninstall.exe ここで X_X はリリース番号です。
GUI モード	または、[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]>[Sybase Control Center]>[変更と削除] を選択します。
サイレント・モード	次の行を実行します。 start /WAIT %SYBASE%\sybuninstall\SCCSuite-X_X\uninstall.exe -i silent ここで、X_X はリリース番号です。 ユーザ・データ・ファイルを削除するには、コマンドに次のオプションを追加します。 -DUNINSTALL_DELETE_DATA_FILES=true 注意： 手動で削除する必要があるファイルは、DELETE_DATA_FILES オプションを使用しても、Sybase Control Center のインストール・ディレクトリに残ることがあります。

UNIX の場合：

GUI モード	次の行を実行します。 \$SYBASE/sybuninstall/SCCSuite-X_X/uninstall ここで、X_X はリリース番号です。
サイレント・モード	次の行を実行します。 \$SYBASE/sybuninstall/SCCSuite-X_X/uninstall -i silent ここで、X_X はリリース番号です。 ユーザ・データ・ファイルを削除するには、コマンドに次のオプションを追加します。 -DUNINSTALL_DELETE_DATA_FILES=true 注意： 手動で削除する必要があるファイルは、DELETE_DATA_FILES オプションを使用しても、Sybase Control Center のインストール・ディレクトリに残ることがあります。

4. GUI モードを使用している場合は、アンインストーラに表示される指示に従ってください。

Windows でサイレント・モードを使用している場合は、別のコンソール・ウィンドウが開かれ、アンインストーラの実行中は、そのまま表示され続けます。アンインストーラが完了すると、その別のウィンドウは閉じられ、最初のウィンドウにコマンド・プロンプトが再び表示されます。

5. インストール後に作成されたファイルを削除するには、アンインストーラの終了後に、Sybase Control Center のインストール・ディレクトリを削除します。デフォルトでは、SCC のインストール・ディレクトリは、Sybase ディレクトリ内にあり、名前リリース番号が含まれます。たとえば、Sybase/SCC-3_2 です。

同じマシンに他の Sybase 製品がインストールされていない場合は、Sybase ディレクトリ (Sybase Control Center インストール・ディレクトリの親ディレクトリ) も削除することをおすすめします。

Sybase Control Center のアップグレード

リポジトリ内の主要なファイルをコピーして、新しいバージョンの Sybase Control Center にアップグレードします。

前提条件

最新のバージョンの Sybase Control Center をインストールしてから、アップグレードを行います。前のバージョンの Sybase Control Center を使用して、2 種類以上のリソース (Adaptive Server、Sybase IQ、Replication Server、Replication Agent、Data Assurance) を管理およびモニタリングしていた場合は、新しいバージョンの SCC で同じ製品モジュール・プラグインをインストールしてください。

手順

バージョン 3.1.x または 3.0.x の Sybase Control Center から 3.2.3 へアップグレードできます。SCC 3.2.3 を前のバージョンである 3.2 に上書きインストールした場合は、アップグレード手順を実行する必要はありません。

1. Sybase Control Center のすべてのインスタンスを停止します。
2. 前のバージョンの Sybase Control Center のインストール場所に移動します。
3. 次のファイルをコピーします。

Windows —

- %SYBASE%\¥SCC-3_1¥services¥Repository¥scc_repository.db
- %SYBASE%\¥SCC-3_1¥services¥Repository¥scc_repository.log

または

- %SYBASE%\¥SCC-3_0¥services¥Repository¥scc_repository.db
- %SYBASE%\¥SCC-3_0¥services¥Repository¥scc_repository.log

UNIX —

- \$SYBASE/SCC-3_1/services/Repository/scc_repository.db
- \$SYBASE/SCC-3_1/services/Repository/scc_repository.log

または

- \$SYBASE/SCC-3_0/services/Repository/scc_repository.db
- \$SYBASE/SCC-3_0/services/Repository/scc_repository.log

4. インストールした最新バージョンの対応するディレクトリに、コピーしたファイルを貼り付けます。

Sybase Control Center のアップグレード

たとえば、ファイルを C:\¥Sybase¥SCC-3_2¥services¥Repository に貼り付けます。

5. 前のバージョンの SCC で (sccadmin または sccuser アカウントにパスワードを追加するためなどに) SCC-3_2/conf/csi.properties ファイルを変更した場合は、最新バージョンで SCC-3_2/conf/csi.properties に同じ変更を加えます。

注意：運用環境では、csi.properties に定義されたログイン・アカウントを使用しないことをおすすめします。LDAP またはオペレーティング・システムを使用した認証の設定手順については、Sybase Control Center オンライン・ヘルプの [Get Started] > [Setting up Security] のセクションを参照してください。

6. 新しいバージョンの Sybase Control Center を起動します。
最新バージョンのサーバを前のバージョンのリポジトリを使用して起動すると、リポジトリは、最新バージョンに自動的に移行します。

Sybase 以外のレプリケート・データベース用の JDBC ドライバのインストール

(オプション、レプリケーションの場合のみ) レプリケーション環境で、遅延のモニタリング機能 (**rs_ticket**) を使用して、Sybase 以外のレプリケート・データベースへの遅延を測定するには、JDBC ドライバをインストールして、Sybase Control Center for Replication がこれらのレプリケート・データベースに接続できるようにします。

JDBC ドライバは、Sybase Control Center のインストール後であれば、いつでもインストールできます。Sybase Control Center サーバがすでに稼働中であってもインストールできます。

1. ご使用のデータベース用の JDBC ドライバをダウンロードします。ドライバは、通常、データベース・サーバに付属しているか、またはデータベース・ベンダーの Web サイト上にあります。
 - Oracle 9i、10g、11g
ドライバ - JDK 1.5 をサポートする Oracle JDBC Thin ドライバ 11.1 (ojdbc5.jar)
 - Microsoft SQL Server 2005 および 2008
ドライバ - Microsoft SQL Server JDBC Driver 2.0 (sqljdbc.jar)
 - IBM DB2 UDB 8.22、9.1、9.5
ドライバ - IBM DB2 for Unix, Linux, and Windows JDBC ドライバ 9 (db2jcc.jar および db2jcc_license_cu.jar)
2. ドライバを次の場所に置きます。
 - Windows - %SYBASE%\SCC-3_2\plugins\RMAP\lib
 - UNIX - \$SYBASE/SCC-3_2/plugins/RMAP/lib
3. Sybase Control Center を実行中の場合は、停止して、再度起動します。

Sybase 以外のレプリケート・データベース用の JDBC ドライバのインストール

Sybase Control Center の起動と停止

Sybase Control Center を起動または停止します。Sybase Control Center は、Windows と UNIX でサービスとして実行できます。

Windows での ODBC ドライバの登録

Windows で、**scc.bat** を管理者特権で実行して、ODBC ドライバを登録します。

Windows マシン上で Sybase Control Center を初めて起動すると、専用の ODBC ドライバが登録されます。ODBC ドライバの自動登録によってレジストリ設定が編集されるため、**scc.bat** は高度な管理者特権を使用して実行します。適切な特権なしで初めて起動すると、Sybase Control Center はエラーを生成し、起動に失敗します。

Windows Vista、Windows 2008、Windows 7 では、すでに管理者特権を持っている場合でも、[管理者として実行] 設定を使用して Sybase Control Center を起動します。このプロセスについては、以下で説明しています。

他のバージョンの Windows では、Sybase Control Center を初めて起動するには、管理者としてログインします。以下の手順に従う必要はありません。

1. Windows Vista、Windows 2008、または Windows 7 で、管理者特権でコマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
 - [スタート]>[すべてのプログラム]>[アクセサリ] を選択します。[コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
 - または、[スタート] メニューの検索ボックスに **cmd** と入力して、[Shift+Ctrl+Enter] キーを押します。
2. **scc.bat** を実行します。

Windows での Sybase Control Center の起動と停止

Sybase Control Center または SCC エージェントを起動および停止する方法は複数あります。手動での起動は、テストやトラブルシューティングに役立ちます。また、自動で起動し、障害時には再起動するサービスを設定することもできます。

ここでの説明は、Sybase Control Center (サーバ) と、SCC によって管理される各製品サーバ上で稼働する Sybase Control Center エージェントの両方に該当します。また、単一インストールと、共有ディスクから実行されている SCC エージェントおよびサーバのインスタンスの両方に該当します。

Sybase Control Center の起動と停止

Sybase Control Center または SCC エージェントを手動で実行した場合は、起動または停止するごとにコマンドを発行します。サービスとして実行している場合 (推奨) は、サービスが自動的に起動および再起動されるように設定できます。次のオプションがあります。

- **scc.bat** コマンドを使用して、Sybase Control Center または SCC エージェントを手動で起動する。このコマンドでは、Sybase Control Center コンソールにアクセスできます。このコンソールを使用して、停止したり、サービス、ポート、システム・プロパティ、環境変数についての情報を表示したりすることができます。また、**scc.bat** を使用してロギング・レベルを変更し、トラブルシューティングに役立つこともできます。**scc.bat** を使用すると、サービスの場合に使用できる自動起動/再起動機能は使用できません。
- Windows コントロール・パネルの [サービス] 一覧を使用して、SCC サーバまたはエージェント用 Sybase Control Center サービスの起動、停止、設定を行う。
- **net start** および **net stop** コマンドを使用する。これは、Sybase Control Center または SCC エージェントをサービスとして実行するもう 1 つの方法です。

注意： SCC エージェントまたはサーバをサービスとして起動する場合は、次の点に留意してください。

- 単一インストールの場合、インストーラで [Yes] を選択して、エージェントまたはサーバをサービスとしてインストールしている必要があります。
 - 共有ディスク・インストールの場合、エージェントやサーバは、**sccinstance** コマンドの **-service** オプションを使用して展開されている必要があります。
-

単一インストールの場合、インストーラの指示に従うことで、Sybase Control Center または SCC エージェントをサービスとして起動できます。サービスは、インストーラによって、自動で再起動するように設定されます。Windows の [サービス] 一覧で Sybase Control Center サービスが存在することを確認してから起動します。

次に、起動/停止オプションごとの手順を説明します。

- **Sybase Control Center または SCC エージェントを起動するには、次の手順に従います。**
 - a) (SCC エージェントの場合は、この手順を省略してください。) Windows Vista、Windows 2008、または Windows 7 で Sybase Control Center を初めて起動する場合は、Sybase Control Center が ODBC ドライバを登録できるように、コマンド・プロンプトで [管理者として実行] オプションを設定します (この作業は、管理者としてログインしている場合でも行う必要があります)。
 - b) **scc** コマンドを入力します。
単一インストールの場合：


```
%SYBASE%\¥SCC-3_2¥bin¥scc.bat
```

インスタンスの場合：

```
%SYBASE%\¥SCC-3_2¥bin¥scc.bat -instance <instance-name>
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **Sybase Control Center** または **SCC エージェント** を停止するには、次の手順に従います。

- a) **scc --stop** コマンドを入力します。

単一インストールの場合：

```
%SYBASE%\¥SCC-3_2¥bin¥scc.bat --stop
```

インスタンスの場合：

```
%SYBASE%\¥SCC-3_2¥bin¥scc.bat --stop -instance <instance-name>
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

注意： `scc-console>` プロンプトで **shutdown** と入力することも可能です。

- **Windows コントロール・パネル** から **起動** または **停止** し、**自動起動** / **再起動** を設定するには、次の手順に従います。

- a) Windows の [コントロール パネル] を開きます。
- b) [管理ツール] > [サービス] を選択します。
- c) [サービス] 一覧で "Sybase Control Center" を検索します。リリース番号が後に付いていることがあります。また、インスタンス用サービスの場合は、その後にインスタンス名も付いています。サービス名では、エージェントとサーバを見分けることはできません。サービスが実行中の場合、[状態] 列には [開始] と表示されます。
- d) サービスを起動または停止するには、[サービス] 一覧で [Sybase Control Center] エントリを右クリックし、[開始] または [停止] を選択します。
- e) 自動起動を設定するには、サービスをダブルクリックします。
- f) マシンの起動時にサービスが自動的に起動するように設定するには、[スタートアップの種類] を [自動] に変更します。
- g) 障害時にサービスを再起動するには、[回復] タブを選択して、[最初のエラー]、[次のエラー]、[その後のエラー] を [サービスを再起動する] に変更します。

Sybase Control Center の起動と停止

h) [適用] をクリックして変更を保存し、ダイアログを閉じます。

- **Sybase Control Center** または **SCC エージェントを制御する Sybase Control Center サービスを、Windows コマンド・ラインから起動または停止するには、次の手順に従います。**

a) サービスを起動するには、**net start** コマンドを入力します。

単一インストールの場合：

```
net start "sybase control center 3.2.3"
```

```
The Sybase Control Center 3.2.3 service is starting.....  
The Sybase Control Center 3.2.3 service was started  
successfully.
```

インスタンスの場合は、丸カッコの中にインスタンス名を含めます。

```
net start "sybase control center 3.2.3 (Boston-1)"
```

```
The Sybase Control Center 3.2.3 (Boston-1) service is  
starting.....  
The Sybase Control Center 3.2.3 (Boston-1) service was  
started successfully.
```

b) サービスを停止するには、**net stop** コマンドを入力します。

単一インストールの場合：

```
net stop "sybase control center 3.2.3"
```

```
The Sybase Control Center 3.2.3 service is stopping.....  
The Sybase Control Center 3.2.3 service was stopped  
successfully.
```

インスタンスの場合は、丸カッコの中にインスタンス名を含めます。

```
net stop "sybase control center 3.2.3 (Boston-1)"
```

```
The Sybase Control Center 3.2.3 (Boston-1) service is  
stopping.....  
The Sybase Control Center 3.2.3 (Boston-1) service was  
stopped successfully.
```

UNIX での Sybase Control Center の起動と停止

Sybase Control Center または SCC エージェントは手動で起動できます。手動での起動は、テストやトラブルシューティングに役立ちます。また、自動で起動し、障害時には再起動するサービスを設定することもできます。

ここでの説明は、Sybase Control Center (サーバ) と、SCC によって管理される各製品サーバ上で稼働する Sybase Control Center エージェントの両方に該当します。ま

た、単一インストールと、共有ディスクから実行されている SCC エージェントおよびサーバのインスタンスの両方に該当します。

Sybase Control Center または SCC エージェントを手動で起動した場合は、起動または停止するごとにコマンドを発行します。サービスとして実行している場合 (推奨) は、サービスが自動的に起動および再起動されるように設定できます。次のオプションがあります。

- **scc.sh** スクリプトを使用して、Sybase Control Center または SCC エージェントを手動で起動する。次のいずれかを選択できます。
 - **scc.sh** をフォアグラウンドで実行して、Sybase Control Center コンソールにアクセスする。このコンソールを使用して、停止したり、サービス、ポート、システム・プロパティ、環境変数についての情報を表示したりすることができます。
 - **scc.sh** をバックグラウンドで実行して、コンソールを非表示にする。
- **scc.sh** を使用して、Sybase Control Center をデフォルトとは異なるロギング・レベルで実行すると、トラブルシューティングに役立ちます。**scc.sh** を使用して手動で起動した場合、サービスの場合に使用できる自動起動／再起動機能は使用できません。
- **sccd** スクリプトを使用して、Sybase Control Center または SCC エージェントを自動で起動するサービスを設定する。

次に、起動／停止オプションごとの手順を説明します。

- **Sybase Control Center または SCC エージェントを初めて起動する前に、環境変数を設定します。** この作業は 1 回だけ行ってください。
 - a) Sybase ディレクトリ (Sybase Control Center インストール・ディレクトリの親ディレクトリ) に移動します。
 - b) 次のいずれかを実行して、環境変数を設定します。

Bourne シェル :

```
. SYBASE.sh
```

C シェル :

```
source SYBASE.csh
```

- **Sybase Control Center または SCC エージェントをフォアグラウンドで実行するには、次の手順に従います。**

フォアグラウンドでの実行は、手動で起動する方法です。Sybase Control Center または SCC エージェントを停止および再起動するには、コマンドを発行します。

- a) Sybase Control Center または SCC エージェントを起動し、起動シーケンスの終了時にコンソールを表示するには、**scc** コマンドを入力します。

単一インストールの場合 :

Sybase Control Center の起動と停止

```
$SYBASE/SCC-3_2/bin/scc.sh
```

インスタンスの場合：

```
$SYBASE/SCC-3_2/bin/scc.sh -instance <instance-name>
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **Sybase Control Center または SCC エージェントをバックグラウンドで実行するには、次の手順に従います。**

nohup、**&**、**>** を使用して Sybase Control Center または SCC エージェントをバックグラウンドで実行し、出力およびシステム・エラーをファイルにリダイレクトして、SCC コンソールを非表示にすることができます。バックグラウンドでの実行は、手動で起動する方法です。Sybase Control Center または SCC エージェントを停止および再起動するには、コマンドを発行します。

- a) ご使用のシェルに合わせて、以下のサンプルと同様のコマンドを実行します。どちらのサンプル・コマンドも、出力を `scc-console.out` ファイルに送信します。出力ファイルがすでに存在する場合、ファイルに追加またはファイルをトランケートするには、シェル演算子を追加する必要がある場合があります。

Bourne シェル (sh) または Bash

単一インストールの場合：

```
nohup ./scc.sh 2>&1 > scc-console.out &
```

インスタンスの場合：

```
nohup ./scc.sh -instance <instance-name> 2>&1 > scc-console-your-instance.out &
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

C シェル

単一インストールの場合：

```
nohup ./scc.sh >& scc-console.out &
```

インスタンスの場合：

```
nohup ./scc.sh -instance <instance-name> >& scc-console.out &
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **Sybase Control Center または SCC エージェントを停止するには、次の手順に従います。**

- a) `scc-console>` プロンプトから停止するには、次のように入力します。

```
shutdown
```

警告！ UNIX のプロンプトで **shutdown** と入力しないでください。入力すると、オペレーティング・システムがシャット・ダウンしてしまいます。

UNIX コマンド・ラインから停止するには、**scc --stop** コマンドを入力します。

単一インストールの場合：

```
$SYBASE/SCC-3_2/bin/scc.sh --stop
```

インスタンスの場合：

```
$SYBASE/SCC-3_2/bin/scc.sh --stop -instance <instance-name>
```

インスタンス名がホスト名と同じの場合 (デフォルト)、**-instance** オプションを省略できます。

- **Sybase Control Center** または **SCC エージェント** をサービスとして実行されるように設定するには、次の手順に従います。

UNIX サービスとは、マシンの起動後に自動的に起動し、バックグラウンドで実行されるデーモン・プロセスです。Sybase Control Center を UNIX にインストールすると、**sccd** シェル・スクリプトもインストールされます。このシェル・スクリプトを使用して、Sybase Control Center サービスを設定できます (一部の UNIX プラットフォームには、サービスの設定を容易にするためのツールが付属しています。Linux の **chkconfig** などは、その一例です)。

注意： UNIX でのサービスの設定に慣れていない場合は、この作業をシステム管理者に依頼するか、ご使用の UNIX プラットフォームのシステム管理マニュアルを参照することをおすすめします。

a) `$SYBASE/SCC-3_2/bin/sccd` を次のディレクトリにコピーします。

- AIX (SCC エージェントのみ)： `/etc/rc.d/init.d`
- HP-UX (SCC エージェントのみ)： `/sbin/init.d`
- その他のプラットフォーム： `/etc/init.d`

b) `sccd` を開いて、次のように変更します。

- `SYBASE` 変数を設定する行を、Sybase インストール・ディレクトリ (Sybase Control Center インストール・ディレクトリ `SCC-3_2` の親ディレクトリ) に変更します。デフォルトでは、このディレクトリは Sybase です。
- 共有ディスク・モードを使用していない場合、または共有ディスク・モードを使用してホスト名と同じ名前の単一インスタンスを実行している場合は、手順 5.c (34 ページ) または手順 5.d (34 ページ) にスキップします。

- 共有ディスク・モードを使用してホスト名とは異なる名前の単一インスタンスを実行している場合、または同じホスト上で複数のインスタンスを実行している場合は、スクリプト名にインスタンス名を追加します。

```
SCRIPT_NAME=scc.sh
```

上記を次のように変更します。

```
SCRIPT_NAME="scc.sh -instance <instance-name>"
```

- 共有ディスク・モードを使用して同じホスト上で複数のインスタンスを実行している場合は、出力ログ・ファイルの名前にインスタンス名を追加します。

```
./${SCRIPT_NAME} --start 2>&1 >> ${SCC_HOME}/log/scc-  
service.out &
```

上記を次のように変更します。

```
./${SCRIPT_NAME} --start 2>&1 >> ${SCC_HOME}/log/scc-  
service_<instance-name>.out &
```

- 共有ディスク・モードを使用して同じホスト上で複数のインスタンスを実行している場合は、インスタンスごとに sccd スクリプトのコピーを保存します。各コピーには、一意の名前を付けます。コピーごとに、上記の説明に従って、スクリプト名にインスタンス名を追加し、出力ログ・ファイルの名前にインスタンス名を追加します。残りの手順を sccd のコピーごとに実行します。

- c) Linux の場合は、サービスがラン・レベル 2、3、4、5 で実行されるように設定します。

```
/usr/sbin/chkconfig --add sccd  
/usr/sbin/chkconfig --level 2345 sccd
```

sccd スクリプトは、`/usr/sbin/service sccd status` を使用してテストできます (**service** コマンドで指定できるオプションは、**start | stop | status | restart** です)。

- d) Linux 以外のプラットフォームでは、次のディレクトリを検索します。

- AIX (SCC エージェントのみ) : `/etc/rc.d/rc<X>.d`
- HP-UX (SCC エージェントのみ) : `/sbin/rc<X>.d`
- Solaris : `/etc/rc<X>.d`

ここで、`<X>` はラン・レベル (たとえば 3) です。ご使用のプラットフォームのディレクトリに 2 つのソフト・リンクを作成して、次を参照するようにリンクを設定します。

- AIX (SCC エージェントのみ) :
`/etc/rc.d/init.d/sccd: S90sccd および`
`/etc/rc.d/init.d/sccd: K10sccd`
- HP-UX (SCC エージェントのみ) :
`/sbin/init.d/sccd: S90sccd および`

```
/sbin/init.d/sccd: K10sccd
```

- Solaris :

```
/etc/init.d/sccd: S90sccd および
```

```
/etc/init.d/sccd: K10sccd
```

S90sccd リンクはサービスを起動し、K10sccd リンクはサービスを停止します。リンク内の 2 桁の数字は、サービスの起動および停止の優先順位を示します。

- e) S90sccd および K10sccd リンクを使用して、サービスの起動と停止をテストします。この 2 つのリンクは、マシンの起動または停止時に自動的に呼び出されます。

インストール後の設定

インストールが完了したら、テストと設定を行います。

前提条件

Sybase Control Center を起動します。

手順

1. Sybase Control Center への接続に使用する Web ブラウザに Adobe Flash Player 10.1 以降をインストールします。

Flash Player は無償のプラグインです。最新バージョンを <http://get.adobe.com/jp/flashplayer/> からダウンロードできます。

インストール済みの Flash Player のバージョンが不明な場合は、Adobe のテスト・サイト (<http://www.adobe.com/jp/shockwave/welcome/>) にアクセスします。[Adobe Flash Player のインストール状況をテスト] リンクをクリックします。表示される次のページのバージョン情報ボックスに、Flash Player のバージョンが表示されます。

2. Sybase Control Center に接続するには、ブラウザに次のアドレスを指定します。
`https://<scs_server_hostname>:8283/scs`

注意： インストール時にデフォルトの HTTPS ポートを変更した場合は、8283 ではなく新しいポート番号を使用します。

3. セキュリティ証明書に関するエラーが表示された場合は、ブラウザの信頼済みサイト・ゾーンに Sybase Control Center を追加するか (Internet Explorer)、セキュリティ例外を追加します (Firefox)。
4. ログインします。Sybase Control Center には、2 種類のデフォルト・ログイン・アカウントがあります。

- sccadmin — 初期設定と、永続的な認証の設定に使用。
- sccuser — テスト用。

いずれのアカウントもパスワードは不要です。

注意： sccadmin および sccuser アカウントと、その基盤となっている簡易ログイン・モジュールは、運用環境向けではありません。お使いのオペレーティング・システムまたは LDAP で認証を実行することをおすすめします。オンライン・ヘルプの [Sybase Control Center] > [Get Started] > [Setting Up Security] セクションを参照してください。

また、認証の設定とテストが完了したら、できるかぎり早く `sccadmin` と `sccuser` を無効にすることをおすすめします。認証の設定とテストをすぐに行わない場合は、これらのアカウントにパスワードを設定してください。

5. (オプション) `sccadmin` と `sccuser` にパスワードを設定するか、または無効にします。「デフォルト・ログイン・アカウントへのパスワードの設定／無効化」を参照してください。
6. Sybase Control Center について理解を深めてください。ヘルプ・システムを開くには、画面の右上隅で [?] をクリックするか、[Help] > [Online Documentation] を選択します。

SSL 証明書の設定

X.509 証明書をインストールして、Sybase Control Center とブラウザ・クライアント間で暗号化された SSL 通信を行い、セキュリティを確保します。

Sybase Control Center は、初回起動時に、Sybase Control Center を実行しているホスト用に、自己署名の X.509 SSL (Secure Sockets Layer) 証明書を生成します。自己署名証明書は、信頼できる認証局によって発行されていないため、ほとんどのブラウザは、自己署名証明書を使用して Sybase Control Center に接続しようとしたときにエラーを表示します。

ブラウザのエラーは、無視するか、セキュリティ例外を追加できます。サーバが保護されたマシン上で稼働していることがわかっている場合は、自己署名証明書を受け入れても通常は安全です。ただし、ブラウザが証明書エラーを引き続き表示することがあります。

証明書エラーが出ないようにするには、認証局が発行した永続的な SSL 証明書をインストールします。認証局が署名した証明書は、運用ネットワークで Sybase Control Center を使用する前にインストールすることをおすすめします。証明書は、Sybase Control Center サーバをインストールするマシンごとに取得してください。

次に、認証局が発行する SSL 証明書の購入とインストールの概要を示します。詳細については、<http://docs.codehaus.org/display/JETTY/How+to+configure+SSL> を参照してください。

1. 既存の証明局 (VeriSign, Inc.、Thawte, Inc. など) から SSL 証明書を取得するには、証明書署名要求 (CSR: certificate signing request) を生成して、証明局に送信します。次のいずれかのコマンドを使用して、CSR を生成します。

Windows :

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore  
%SYBASE%\SCC-3_2\services\EmbeddedWebContainer\keystore
```

```
-file scc_jetty.csr
```

UNIX :

```
keytool -certreq -alias jetty -keystore
$SYBASE/SCC-3_2/services/EmbeddedWebContainer/keystore
-file scc_jetty.csr
```

注意： **keytool** ユーティリティは、Sybase JRE インストール・ディレクトリにあります。

Windows : %SYBASE_JRE6%¥bin¥keytool

UNIX : \$SYBASE_JRE6/bin/keytool

2. 認証局の指示に従って、署名済み証明書を Sybase Control Center キーストアにインポートし、必要に応じて、認証局の信頼できる証明書をトラストストア (cacerts) にインストールします。署名済み証明書をインポートするコマンドは、通常、次のとおりです。

Windows :

```
keytool -keystore %SYBASE%¥SCC-3_2¥services
¥EmbeddedWebContainer¥keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

UNIX :

```
keytool -keystore $SYBASE/SCC-3_2/services/
EmbeddedWebContainer/keystore
-import -alias jetty -file scc_jetty.crt -trustcacerts
```

キーストアの初期パスワードは、changeit です。

デフォルト・ログイン・アカウントへのパスワードの設定／無効化

デフォルト・ユーザ・アカウントを使用する予定の場合は、新しいパスワードを設定します。これらのアカウントを使用する予定がない場合は、無効にします。デフォルト・ユーザ・アカウントは、sccadmin、scuser (Sybase Control Center) と、uafadmin (SCC エージェント) です。

前提条件

次の作業を行ってから、sccadmin または uafadmin アカウントを無効にします。

- LDAP またはオペレーティング・システムを介してユーザを認証するように、Sybase Control Center (SCC エージェントの uafadmin アカウントを無効にする場

合は SCC エージェント)を設定します。Sybase Control Center オンライン・ヘルプの [Get Started] > [Setting Up Security] を参照してください。

- LDAP またはオペレーティング・システムの 1 つ以上のユーザ・アカウントに Sybase Control Center (または SCC エージェント)の管理者権限を付与します。オンライン・ヘルプの [Get Started] > [User Authorization] を参照してください。

手順

1. テキスト・エディタで `csi.properties` ファイルを開きます。

```
Windows : %SYBASE%\$SCC-3_2\conf\csi.properties
```

```
UNIX : $SYBASE/SCC-3_2/conf/csi.properties
```

2. 該当するアカウント名を検索します。

- Sybase Control Center : `=sccadmin`

- SCC エージェント : `=uafadmin`

アカウント名を含む行と、以降の数行は、次のように表示されるはずです。

```
CSI.loginModule.2.options.username=<sccadmin or uafadmin>
CSI.loginModule.2.options.password=
CSI.loginModule.
2.options.roles=uaAgentAdmin,uaPluginAdmin,sccAdminRole
CSI.loginModule.2.options.encrypted=false
```

3. (オプション) アカウントを無効にするには、ファイルの `sccadmin` または `uafadmin` のブロックに含まれる各行の先頭に番号記号 (#) を挿入して、ブロックをコメント・アウトします。Sybase Control Center の場合は、`sccuser` についても同様の作業を行います。次に、手順 11 にスキップします。
4. `sccadmin` または `uafadmin` アカウントのパスワードを暗号化してコピーします (「パスワードの暗号化」(41 ページ)を参照してください)。
5. `password=` で終わる行の末尾に暗号化したパスワードを貼り付けます。
6. 一番下の行で、`encrypted=false` を `encrypted=true` に変更します。
7. Sybase Control Center の場合は、`sccuser` 用の別のパスワードを暗号化してコピーします。SCC エージェントの場合は、手順 11 にスキップします。
8. `csi.properties` に戻って、`=sccuser` を検索します。
9. `sccuser` の `password=` 行の末尾に、暗号化したパスワードを貼り付けます。
10. `sccuser` ブロックの一番下の行で、`encrypted=false` を `encrypted=true` に変更します。
11. ファイルを保存して終了します。
12. 新しいパスワード、または無効にしたパスワードを有効にするには、変更を加えた Sybase Control Center サーバまたはエージェントを再起動します。

パスワードの暗号化

テキスト・ファイルに保存している間、安全に保つ必要があるパスワードなどの値を暗号化するには、**passencrypt** ユーティリティを使用します。

暗号化されたパスワードは、プロパティ・ファイルに安全に保存できます。**passencrypt** を実行するときや、パスワードを使用してログインするときには、パスワードをクリア・テキスト (暗号化されていない状態) で入力します。

passencrypt は、Sybase Control Center bin ディレクトリにあり、DES 暗号化アルゴリズムを使用しています。

1. コマンド・ウィンドウを開き、bin ディレクトリに移動します。

```
Windows : cd <SCC-install-directory>%bin
```

```
UNIX : cd <SCC-install-directory>/bin
```

2. パスワードを暗号化するには、**passencrypt** と入力します。表示されたプロンプトで、新しいパスワードを入力します。**passencrypt** ユーティリティは、入力されたパスワード (画面には表示されません) を暗号化し、そのパスワードを暗号化された形式で表示します。
3. 暗号化されたパスワードをコピーします。
4. 暗号化されたパスワードを必要な場所に貼り付けます。

Sybase Control Center の設定

設定タスク (セキュリティの設定など) を実行してから、Sybase Control Center を使用します。

1. 次のいずれかの操作を行って、オンライン・ヘルプにアクセスします。
 - Sybase Control Center 画面の右上隅で、[?] をクリックします。ヘルプ・ウィンドウの左側のウィンドウ枠で、Sybase Control Center の各マニュアルを展開します。
 - <http://sybooks.sybase.com> にアクセスし、[Select a Product] リストから [Sybase Control Center] を選択します。

製品のヘルプには、インストールした各製品コンポーネントのヘルプ・モジュールが含まれます。Sybooks サイトのヘルプには、すべてのヘルプ・モジュールが含まれます。

2. 次の設定手順を完了します。

インストール後の設定

タスク	ヘルプ内の場所
(オプション) クイック・スタートの実行	[Get Started] > [Quick Start for an Evaluation]
運用環境用の設定タスクの実行	[Get Started] > [Get Started in a Production Environment]
SCC 製品モジュールの設定 サーバの登録、統計収集の設定、警告の作成など	[Configure]
注意： 設定タスクは、コンポーネントによって異なります。2つ以上の Sybase Control Center 製品モジュールをインストールした場合は、それぞれの設定手順に従ってください。	

インストールのトラブルシューティング

Sybase Control Center の問題を解決します。

表 3 : Windows の場合

問題	解決法
インストーラが起動しない	エラー・メッセージを表示するには、 setup.exe の代わりに setupConsole.exe を実行します。
インストーラまたはアンインストーラが Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 x86 64 ビット版で失敗する	インストーラまたはアンインストーラは、環境変数を設定できないと失敗します。この現象は、一般に、32 ビット版 (nt386) の SCC インストーラを 64 ビット・マシンで使用した場合に起こります。 Windows エクスプローラで、 setup.exe 、 setupConsole.exe 、または uninstall.exe を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[互換性] タブで、[Windows XP] 互換モードを選択します。
Windows XP で SCC をサービスとしてインストールまたは起動しようとすると、エラーが発生する	以下のエラーが表示される場合は、Windows XP を Service Pack 1 以降にアップグレードします。Windows XP のベース・バージョンでは、Sybase Control Center をサービスとして実行できません。 <code>sccservice.exe - Entry Point Not Found: The procedure entry point SetDllDirectoryA could not be located in the dynamic link library KERNEL32.dll.</code>
インストール後に SCC が起動しない	scc.bat を実行します。「Windows での Sybase Control Center の起動と停止」(27 ページ)を参照してください。
インストール後に SCC が起動しない	次のエラーが表示されることがあります。 <code>Could not create the Java virtual machine.</code> SCC を実行しているマシンの最大ヒープ・サイズが、SCC の初期ヒープ・サイズ (128MB) よりも小さい場合、SCC は起動しません。SCC で使用できるメモリを増やすには、 SCC_MEM_MAX 環境変数をマシンに適切な値に設定します。たとえば、次のように設定します。 <pre>> set SCC_MEM_MAX=512</pre> このように設定することで、SCC を scc コマンドを使用して開始できます。SCC Windows サービスのメモリ・オプションの変更については、SCC オンライン・ヘルプの [Get Started] > [Launching Sybase Control Center] > [Configuring Memory Usage] を参照してください。

インストールのトラブルシューティング

問題	解決法
スクリプトの実行が有効になっていない	Sybase Control Center に接続しているときに、Running scripts is not enabled というメッセージや、同様のメッセージが表示された場合は、次の項目で説明されている方法で、ブラウザのセキュリティ設定を緩和します。

問題	解決法
<p>Sybase Control Center に接続できない、または Adobe Flash Player をインストールできない</p>	<p>Internet Explorer (IE) のセキュリティ強化の構成など、ブラウザに強力なセキュリティが設定されていて、ブラウザで Flash Player をロードできない場合、Sybase Control Center に接続できません。接続しようとする、次のようなメッセージが表示されることがあります。</p> <p>This content requires the Adobe Flash Player. Get Flash.</p> <p>場合によっては、Flash Player が必要であることが示されず、ブラウザのウィンドウに灰色のボックスのみが表示されることがあります。</p> <p>Flash Player をインストールして、Sybase Control Center を使用できるようにするには、IE の ActiveX コントロールなど、ブラウザのセキュリティ設定を緩和します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Flash Player をダウンロードするには、[Get Flash] リンクをクリックするか、http://get.adobe.com/jp/flashplayer/ にアクセスします。 ライセンス契約を確認して、[Agree and install now] をクリックします。ブラウザのセキュリティ・オプションが厳密すぎると、Flash Player をインストールできません。 Flash Player をインストールできるように、セキュリティ・レベルを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer で、[ツール]>[インターネット オプション]>[セキュリティ]>[インターネット]>[レベルのカスタマイズ]を開きます。 [セキュリティ設定] ダイアログのほとんどのオプションでは、[無効にする]、[有効にする]を選択できるようになっています。また、多くの場合、[ダイアログを表示する]が選択できます。このオプションでは、機能を使用したり、説明されているアクションを実行する前に、ユーザの同意を求めるダイアログが IE によって表示されます。ダイアログで無効になっているすべてのオプションを [有効にする] または [ダイアログを表示する] に設定してください。[ダイアログを表示する] の方が安全です。 Firefox の場合は、[Tools] > [Options] > [Content] および [Tools] > [Options] > [Security] にアクセスして、制限の少ない設定を選択します。 メイン・ウィンドウに戻って、Flash Player のインストール・ページを再ロードします。Flash Player が自動的にインストールされ、インストールが完了すると、短い動画が再生されます。 Sybase Control Center に接続して、ログインします。

表 4 : UNIX の場合

問題	解決法
<p>インストーラを GUI モードで実行できない</p>	<p>1. ご使用のオペレーティング・システムで JRE (Java Runtime Environment) 6 の実行に必要なパッチがインストールされていることを確認します。</p> <p>2. リモート・マシンの UNIX プロンプトで、次のコマンドを入力します。ここで、host_name は、インストーラを表示するマシン(つまり、ローカル・マシン)の名前です。</p> <p>C シェルの場合：</p> <pre>setenv DISPLAY host_name:0.0</pre> <p>Bourne シェルの場合：</p> <pre>DISPLAY=host_name:0.0; export DISPLAY</pre>
<p>インストールが失敗し、ファイル・システムに空きがないという内容のメッセージが表示されることがある</p>	<p>インストーラを実行できるよう、/tmp の空き領域を増やします。必要なディスク領域については、「システムの稼働条件 (5 ページ)」を参照してください。</p>
<p>インストール後に SCC が起動しない</p>	<p>scc.sh を実行します。「UNIX での Sybase Control Center の起動と停止」(30 ページ)を参照してください。</p>
<p>インストール後に SCC が起動しない</p>	<p>次のエラーが表示されることがあります。</p> <pre>Could not create the Java virtual machine.</pre> <p>SCC を実行しているマシンの最大ヒープ・サイズが、SCC の初期ヒープ・サイズ (128MB) よりも小さい場合、SCC は起動しません。SCC で使用できるメモリを増やすには、SCC_MEM_MAX 環境変数をマシンに適切な値に設定します。たとえば、次のように設定します。</p> <pre>bash\$ export SCC_MEM_MAX=512</pre> <p>このように設定することで、SCC を scc コマンドを使用して開始できます。SCC UNIX サービスのメモリ・オプションの変更については、SCC オンライン・ヘルプの [Get Started] > [Launching Sybase Control Center] > [Configuring Memory Usage] を参照してください。</p>

問題	解決法
<p>クライアントにサーバへの接続権限がない</p>	<p>インストーラを起動したときに次のエラー・メッセージが表示される場合は、ユーザが操作しているローカル・マシン上にユーザ・インタフェースを表示する権限がリモート・マシンにありません。</p> <pre>Xlib: connection to "host_name" refused by server Xlib: Client is not authorized to connect to Server xhost: unable to open display "host_name"</pre> <p>この問題を解決するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ローカル・マシンの UNIX プロンプトで、次のコマンドを入力します。ここで、remote_machine は、インストーラを実行しているマシンです。 <pre>xhost +remote_machine</pre> インストーラを再起動します。
<p>スクリプトの実行が有効になっていない</p>	<p>Sybase Control Center に接続しているときに、Running scripts is not enabled というメッセージや、同様のメッセージが表示された場合は、次の Flash Player のインストールに関する項目で説明されている方法で、ブラウザのセキュリティ設定を緩和します。</p>

問題	解決法
<p>Sybase Control Center に接続できない、または Adobe Flash Player をインストールできない</p>	<p>ブラウザに強力なセキュリティが設定されていて、Flash Player をロードできない場合、Sybase Control Center に接続できません。接続しようとすると、次のようなメッセージが表示されることがあります。</p> <p>This content requires the Adobe Flash Player. Get Flash.</p> <p>場合によっては、Flash Player が必要であることが示されず、ブラウザのウィンドウに灰色のボックスのみが表示されることがあります。</p> <p>Flash Player をインストールして、Sybase Control Center を使用できるようにするには、ブラウザのセキュリティ設定を緩和します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Flash Player をダウンロードするには、[Get Flash] リンクをクリックするか、http://get.adobe.com/jp/flashplayer/ にアクセスします。 ライセンス契約を確認して、[Agree and install now] をクリックします。ブラウザのセキュリティ・オプションが厳密すぎると、Flash Player をインストールできません。 Flash Player をインストールできるように、セキュリティ・レベルを変更します。Firefox で、[Tools] > [Options] > [Content] および [Tools] > [Options] > [Security] にアクセスして、制限の少ない設定を選択します。 メイン・ウィンドウに戻って、Flash Player のインストール・ページを再ロードします。Flash Player が自動的にインストールされ、インストールが完了すると、短い動画が再生されます。 Sybase Control Center に接続して、ログインします。

索引

C

csi.properties ファイル 39

F

Firefox 5

Flash Player 5, 37

G

GUI モードでのインストール 13

H

HTTP および HTTPS ポート、設定 13

I

Internet Explorer 5

J

JDBC ドライバ、インストール 25

L

Linux システム要件 5

M

Microsoft Windows システム要件 5

O

ODBC ドライバ
登録 27

P

passencrypt ユーティリティ 41

S

SCC エージェント
UNIX でのサービスとしての起動 30

UNIX での起動 30

UNIX での停止 30

Windows でのサービスとしての起動 27

Windows での起動 27

Windows での停止 27

パスワードの設定 39

scc.bat 27

scc.sh 30

sccadmin アカウント

パスワードの設定 39

説明 37

無効化 39

sccd シェル・スクリプト 30

scuser アカウント

パスワードの設定 39

説明 37

無効化 39

Solaris システム要件 5

SSL 証明書 38

Sybase Control Center

Sybase Control Center へのブラウザの接続
37

UNIX でのサービスとしての起動 30

UNIX での起動 30

UNIX での停止 30

Windows でのサービスとしての起動 27

Windows での起動 27

Windows での停止 27

ポート 7

概要 1

設定 41

Sybase Control Center へのログイン — 最初のユ
ーザ 37

Sybase マニュアルの Web サイト 1

U

uafadmin アカウント

パスワードの設定 39

無効化 39

索引

UNIX

- SCC または SCC エージェントの起動、停止 30
- インストールの制限事項 8
- バックグラウンドでの SCC または SCC エージェントの実行 30
- フォアグラウンドでの SCC または SCC エージェントの実行 30

W

Windows

- Sybase Control Center または SCC エージェントの起動、停止 27
 - インストールの制限事項 8
- Windows XP 互換モード 14, 17

あ

- アップグレード作業の流れ 3
- アップグレード手順 23
- アンインストール 20

い

- インストールの制限事項 8
 - インストール後の作業 37
 - インストール後の設定 37
 - インストール作業の流れ 3
 - インストール手順
 - GUI モード 13, 17
 - アンインストール 20
 - インストール前の作業 11
 - コンソール・モード 13, 17
 - サイレント・モード 18
 - トラブルシューティング 43
 - 応答ファイル 17
 - 計画 5
 - 制限事項 8
 - 無人モード 18
- インストール前の作業 11

え

- エージェント

次を参照： SCC エージェント

お

- オペレーティング・システムの要件 5

こ

- コンソール・モードでのインストール 13

さ

- サーバ
 - アップグレード 23
 - モニタリング上の制限 8
 - リポジトリの移行 23
- サービス、UNIX
 - SCC または SCC エージェントをサービスとして実行 30
- サービス、Windows
 - SCC または SCC エージェントをサービスとして実行 27
- サイレント・モード インストール 18

し

- システムの稼働条件 5

と

- ドライバ
 - JDBC、インストール 25
 - ODBC、登録 27
- トラブルシューティング 43

は

- パスワード
 - デフォルト・ユーザ・アカウントで設定 39
 - 暗号化 41
- バックグラウンド、バックグラウンドでの SCC または SCC エージェントの実行 30

ふ

フォアグラウンド、フォアグラウンドでの SCC
または SCC エージェントの実行 30
ブラウザの要件 6
プラットフォーム、サポート 5

へ

ヘルプ・システム、アクセス 38, 41

ほ

ポート 7
設定 13

ら

ライセンス 5

れ

レプリケーション
JDBC ドライバ、インストール 25

ろ

ログイン・アカウント、デフォルト
パスワードの設定 39
説明 37
無効化 39

わ

ワークフロー、インストールおよびアップグ
レード 3

